

食品7.8%高騰46年ぶり

2月

消費者物価は3.1%に鈍化

総務省が二十四日発表した二月の全国消費者物価指数(二〇二〇年=一〇〇、生鮮食品を除く)は前年同月比3.1%上昇の一〇三

ハンバーガー(外食)	24.6%
炭酸飲料	17.1
唐揚げ	11.7
チョコレート	9.4
あんパン	9.0
都市ガス代	16.6
電気代	5.5



食料



エネルギー

※総務省調べ、前年同月比
2月の主な品目の上昇率

・六となり、十三カ月ぶりに伸びが縮小した。政府の電気・都市ガス料金の負担軽減策による押し下げ効果が1割程度あり、前月の4.2%上昇から大きく下がった。ただ抑制策がなければ、単純計算で前月に匹敵する高水準だった。

食料品は7.8%上昇と、四十六年七カ月ぶりの高い上昇率を記録。資源高と円安に伴う輸入価格の高騰で、調理食品や菓子類など幅広い品目で値上げの波が止まらず、家計の重荷となっている。

生鮮食品とエネルギーを

除く指数は3.5%上昇となり、引き続き高い水準だった。

エネルギーは0.7%低下し、前月の14.6%上昇から大きく下がった。このうち電気代は5.5%低下。都市ガス代は16.6%上昇で、前月の35.2%上昇から伸びが鈍化した。

外食は大手チェーンで値上げが相次ぎ6.4%上昇となった。鳥インフルエンザの感染拡大による供給減少や飼料代の高騰で価格が上昇している鶏卵などの乳卵類は11.7%上がった。食料品の値上げ品目数は、

百六十五品目で前月の百五十九品目から増えた。

総務省の担当者は「三月と四月にも加工品を中心に値上げが予定されており、上昇幅はしばらく高い水準

が見込まれる」と説明した。

電気冷蔵庫など家庭用耐久財は11.2%上昇した。新製品の発売があった携帯電話機など通信も7.6%上がった。